

令和6年3月1日

足立区立西新井中学校
校長 齋藤 直樹 様

足立区立西新井中学校
開かれた学校づくり協議会
会長 石鍋 浩

令和5年度 学校関係者評価書

1 自己評価書全般について

おおむね適切な自己評価をしていると考える。

今年度はコロナ以前の活動に戻り、学校と地域が連携を図りながら工夫して特色ある活動を行うことができたと考えている。

また、一人一人の生徒が輝き笑顔あふれる学校づくりを目指した、生徒の自尊感情を高める取組を通して、落ち着いた学校づくり、生徒の自主性向上については一定の成果が出ているといえる。

さらに、より良い学校を目指した生徒会中心の自治活動は、より一層活発になっており、校内環境美化の取組の他に、校則についての話し合いや生徒が生徒に行う活動として「レベルアップウイーク」として、英語コンテスト、数学コンテストにも取り組んだ。これらの取組や生徒会を中心とした生徒による活動からは、生徒一人一人の成長が感じられ、家庭・地域から信頼される学校として位置づけられていくと考える。

評価できる点、努力してほしい点としては以下の3点である。

- (1) 生徒が意欲をもって学習に取り組めるよう学力の向上に向けて努力し、生徒一人ひとりに応じた学習を充実させ、今後はさらに成果があらわれることを期待している。生徒一人1台のタブレット端末等の活用については、定着してきた感があるが、今後も引き続き授業や家庭での学習に有効活用し、活用によって学力向上が図られるよう、教員もスキルアップ、教材研究に努めてほしい。
- (2) 不登校生徒への適切な対応については、不登校生徒数等、大きな課題だと考えている。日頃から一人一人の生徒を大切にす指導を心掛け実践するとともに、生徒や家庭それぞれの思いに寄り添う丁寧な対応をお願いしたい。
- (3) 保護者・地域の連携については、さまざまな方面で家庭・地域からの理解と協力を得るため、教育活動の様子や生徒の活躍が見えるように発信するなど、広報活動をさらに充実させてほしい。今後も信頼される学校を目指して努力してほしい。

2 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

自己評価書からは、「家庭学習習慣の定着」や「不登校生徒への適切な対応」が課題であるとされている。協議会としても、生徒の育成には学校と家庭・地域の連携が不可欠であると認識している。家庭への働きかけを一層強め、家庭教育の充実を図っていきたい。

3 その他

新年度の開かれた学校づくり協議会の活動は、学校とも相談しながら地域としての連携を強化し、今後さらなる教育活動の充実が図られるよう協力をしていきたい。